

# 白子駅前商店街活性化活動

## ～～商店街×高専生＝すずかテラス～～

小川 凌(3E), 森陽一朗(3S), 西村大樹(3S), 稲垣美穂(3S), 政木 確(3S),  
中村晃史(3I), 柴田拓真(2M), 笠井真優(2C), 仲村勇馬(2I), 青木幹太(2S),  
伊藤美津穂(2S), 浅野仁志(1M), 木村圭吾(1I), 下田こうと(1C), 平松一輝(1E)

鈴鹿工業高等専門学校 学生会執行部

### 1. 概要 (目的)

2012年度の三重県戦略企画部の事業の一環である四日市駅前商店街の学生団体による活性化活動企画に参加させていただいた経験を活かし、2013年度には地元である鈴鹿市白子地区の白子駅前センター商店街活性化活動を発足。それに引き続き、2014年度も、白子駅前センター商店街活性化活動の取り組みを継続して行った。商店街の現状や商店街が活気づくのに足りないもの、あるいは商店街の利点・魅力などを学生の目線で意見を出し合い、商店街発展のための話し合いを重ねた。2013年12月より、三重県商店街振興組合連合会の後援を得て、「みえサイエンスネットワーク」の協力のもと鈴鹿高専学生会執行部（以下「学生会」とする）と白子駅前商店街のコラボで、白子駅前商店街のイベントショップにて白子駅前センター商店街活性化活動の実践的企画、愛称「すずかテラス」を発足し、様々なイベントを行った。

白子駅前商店街の皆さんとお互いに利益ある活動を異なる立場と着想からすることにより、商店街に意外な話題を提供し商店街の活性化を図る他、地域に高専を知ってもらい、特に現在は子供たちに自然科学の面白さを教えていく中で、学生会の学生がコミュニケーション能力、企画力、想像力を養うことも目的としている。

### 2. はじめに

近年、大型ショッピングモールが増え始め、駅前商店街の需要は激減している。人々はショッピングモール1つですべての買い物、食事を済ますようになった。多くの店はシャッターが閉まり、商店街は「シャッター通り」と呼ばれるようになった。2012年度は、三重県戦略企画部の事業に参加させていただいた。しかし、日程等の関係から、行動に移せず終わってしまうことが多かった。

2013年度に入り6月、事業でお世話になった三重県商店街振興組合より、「白子商店街の空き店舗を使用し、商店街の活性化につなげてほしい。」との依頼があった。将来幅広い年齢層の方が足を運んでくれ活気あふれる商店街にすることを目的とし、商店街の現状や商店街に足りないものなどを学生の目線で意見を出し合い、商店街発展のための話し合いを重ねた。

三重県商店街振興組合連合会の他、地域産業・自治体と連携し、地域の未来を担う科学者・技術者（未来産業人材）の育成を目指す「みえサイエンスネットワーク」（運営機関：鈴鹿高専）にバックアップしていただき、2013年12月に第一回すずかテラスの開催に至った。

### 3. すずかテラスとは

地域の方々と語ることでできること、地域のこともっと知ることのできる場所、地域の凄いいことを発見できる場所、普段学校の中に入らないことを、駅前をいう場所に求めたいという鈴鹿高専学生会の想いと、白子駅前センター商店街で、何かを継続的にやってほしいという商店街の想い、子供から大人まで科学に興味をもってもらい未来産業人材を育てたいという「みえサイエンスネットワーク」の想いなどの多くの想いがつなまって、商店街×高専生＝すずかテラス、この「すずかテラス」の誕生となった。ちなみに、「すずかテラス」

の名称には、” 「鈴鹿を照らす」新たな力” の意味が込められている。

#### 4. グループのメンバー構成

すずかテラスの運営にあたってのメンバーは、鈴鹿高専学生会執行部の構成員で成り立っている。現在学生会には17名の役員がおり、すずかテラス開催日程に都合のよい役員が学生会内の企画運営の代表者の指示に従い運営を行っている。また、特に学生会のみでの運営を行っている以上、安全に関するリスク管理の必要性に大いに迫られるところもあり、必ず現場運営においては活動におけるマニュアルを把握するメンバーを常時四名以上配置し、緊急連絡先や事故時の対応のマニュアルの整備に尽くしている。

#### 5. すずかテラスの経歴

すずかテラスの学生側企画代表者が世代交代したため、開催日などに若干の相違が見られるが、基本的に第三金曜日、土曜日に開催している。

昨年度は地元のラジオ局（鈴鹿 FM ボイス）、テレビ局（ケーブルネット鈴鹿）、新聞社（中日新聞一鈴亀）などで広報活動の経歴があり、幅広い広告活動も行っている。

2012年 四日市駅前商店街活性化プロジェクトに参加

2013年

夏 白子駅前商店街活性化協議スタート

12月 第一回すずかテラス開催（三日間）

2014年

1月 第二回すずかテラス開催（三日間）

2～5月 学生会引き継ぎ期間のため休止

6月 第三回すずかテラス開催（二日間）

7月 第四回すずかテラス開催（二日間）

8月 第五回すずかテラス開催（二日間）

9月 第六回すずかテラス開催（二日間）

10月 定期テストが重なったため休止。

11月 第七回すずかテラス開催（二日間）

12月 第八回すずかテラス開催（二日間）

#### 6. 現在の主な取り組み内容

これまですずかテラスで行ってきた各イベントの説明

##### ① アーティックブロックで遊ぼう

すずかテラスに足を運んでくださる方々の大半の目的がこのアーティックブロック。歩くロボットや走る車など様々な作品が創作可能で、小さな子供も簡単に遊ぶことができるが、とても奥が深い3Dブロックとなっている。子供たちは皆夢中になって作品づくりを行っている。



図1 アーティックブロック作品

② 3Dペン体験教室

ペン先から樹脂の出る特殊なペンで、従来のペンは平面だけだったが、このペンは立体にも絵が描くことが可能。3Dペンは若干扱いが難しく、初めての子供には少々難易度高めのペン。しかし、慣れてくれば自分の思い通りのものが作れるアイテム。



図2 3Dペン作品例

③ 3Dプリンター展示会

今話題の3Dプリンター。実際に子供たちに操作をさせず、見てもらうイベントとなっている。制作に時間がかかるが、作品を作る過程の3Dプリンターの動きに子供たちは興味津々。



図3 3Dプリンター

④ その他イベント

- ・ 科学教室

スライム作り、フルーツ電池、アメンボすいすい、針金モーター作り、キーホルダー作り

- ・ 餅つき大会

季節イベント。初の飲食物を使ったイベント。

- ・プロコン制作のゲーム体験

本校のプログラミングコンテストプロジェクト（略称：プロコン）の協力で実施した。プロコンが制作した簡単なゲームを子供たちに体験してもらうというイベント。

- ・進路相談会

高専への入学希望者の質問などを受けた。実際に高専へ進学した人の声なので、来てくれた中学生の役にたったと思われる。

- ・白子駅前商店街探検

白子商店街のことをもっと知ってもらいたいと思い、子供たちと商店街マップを制作した。

～イベントの様子～



図4 ロボット教室の様子



図5 進路相談会の様子



図6 子供達と餅つき大会

#### 7. これまでの取り組みの成果・課題

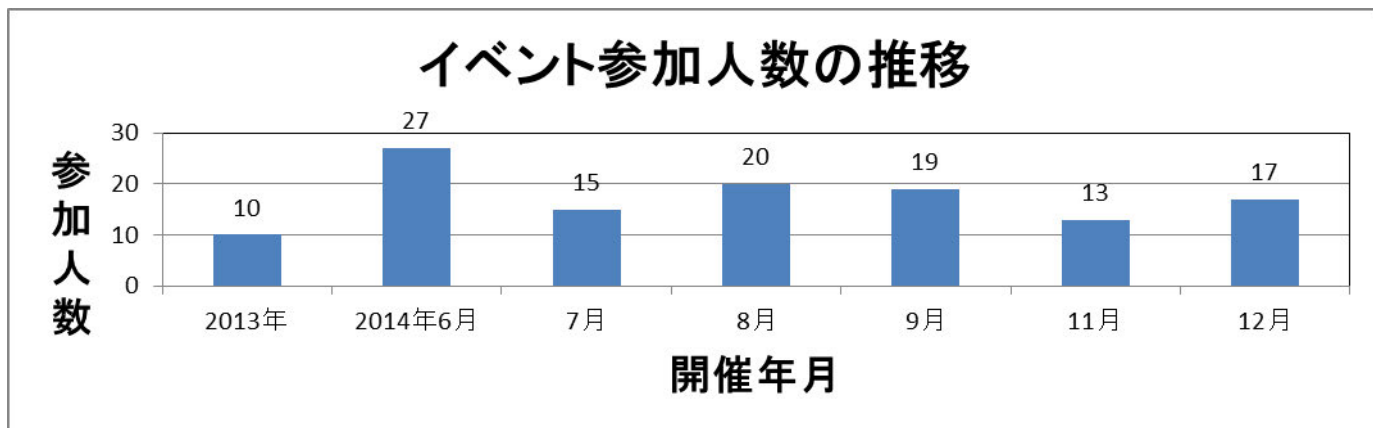


図7 参加人数の推移

2013年度より開始されたこのすずかテラスだったが、当初の参加して下さる親御さんの人数は極めて少なかった。少ないときは参加人数1名などということもあり、頭を悩まされた。

そこで、この問題を打開すべく、2014年に地元のラジオ局（鈴鹿FMボイス）、テレビ局（ケーブルネット鈴鹿）、新聞社（中日新聞一鈴亀）などでの広報活動を大々的に開始。また、近隣幼稚園・小学校・中学校・塾eisu・白子観光案内所・公民館へのポスター配布などの幅広い広報活動を行った結果、2013年度の2回の合計参加人数10人を上回る参加人数を確保することができた。

しかしグラフを見ると、右上がりではないことがわかる。安定した参加人数の確保も今後の課題点である。このことも踏まえ、課題点を下に記す。

- ・開催が不定期になりやすい。  
→学生暦や学生会活動の限界
- ・公共空店舗では活動が拡大化していくにつれて手狭に。  
→参加者の出入りの流れ形成
- ・商店街の各店舗との企画が実践しにくい。  
→店舗との合同企画の難しさ
- ・食品を扱うことの難しさ。  
→保険衛生的問題
- ・毎回の活動予告をする常時的な広報手段の確立  
→単発の広報手段しか現在はない
- ・運営の際に自由に使える安定した資金の確保  
→資金の使用にある程度の制限がある
- ・運営側の人員確保  
→必ずしも執行部全員が参加して運営できるわけではない
- ・安定した参加人数の確保  
→参加者の都合などもある

今後の活動において、これらの課題をどう解決していくかが、このすずかテラスを運営していくにあたって大きな鍵となると思われる。

## 6. 今後の方向性・将来の夢

目標は、当初の目標と変わらず「商店街の活性化」を目指していきたい。そのためにも、まずは地域に住む子供たちにすずかテラスを通して、将来も商店街に足を運んでもらえるように、白子商店街をいいところをたくさん知ってもらえるように努めたい。

また、すずかテラスの将来像としては、より多くの参加者を確保し、規模の大きなイベントを鈴鹿高専の学生が主体となって開催したい。しかし、学生活動としては限界があるため、より多くの団体様に協力やコラボなどをお願いしていきたい。これらのことを実現するためにも、先ほど記した課題点を解決し、さらに良いイベントになるよう努めたい。